

## 自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

グループ名 チーム G-MO

テーマ 発達に障がいをもつ児童生徒の実態を教師が的確に捉え指導に生かす力をつける

### 取組のポイント・成果

毎月1回17時～19時に自主研修会を実施した。事例検討会では、授業や児童の様子を動画で視聴し、行動面から実態を客観的に共有した上で意見交流を行った。これにより、児童個々への支援や授業改善につながった。

#### 1 令和7年 6月17日(火)「事例検討会①」

\*ASD：自閉スペクトラム症

【事例】小1知的障がい・ASD

【内容】椅子に座ることや、お尻を床につけて座ることが難しい児童の支援について検討した。

#### 2 令和7年 7月15日(火)「事例検討会②」

【事例】小2知的障がい・ASD

【内容】喃語が出始めた言葉のない児童の発語を促す指導について検討した。

#### 3 令和7年 8月20日(水)「夏季研修会・事例検討会③」

【テーマ】「発達に障がいをもつ児童の実態を、教師が的確に捉え指導に生かす力をつける」

【講師】岐阜聖徳学園大学 教育学部 特別支援教育専修 准教授 野村香代 氏

【事例】小4知的障がい・ASD

【内容】些細なことで痙攣を起し気持ちの切り替えが難しい児童を題材に事例検討会を行った。応用行動分析の記録表や授業動画をを用いて児童の状態像を共有し意見交換した。

野村氏からは、応用行動分析の記録の読み取り方や、発達段階に基づいた評価(新版K式・田中ビネー等)について助言をいただき児童の行動の背景を捉え直すことで新たな支援方針を構築することができた。



#### 4 令和7年9月29日(月)「事例検討会④」

【事例】小5知的障がい・ASD

【内容】姿勢の乱れや背中中の左右差がみられる児童の自立活動における支援について検討した。

#### 5 令和7年11月27日(木)「座位保持クッション製作①」

姿勢保持指導の留意点を確認し、臀部の型紙をとるときのポイントを学んだ。

#### 6 令和7年12月16日(火)「座位保持クッション製作②」

#### 7 令和8年 1月 6日(火)「座位保持クッション製作③」



## 《成果》

- ・参加者が主体的に事例を提供し、活発な意見交換を行う中で、実態把握の精度が高まり、児童の課題を焦点化して提案できるようになった。
- ・元肢体不自由コアティーチャーが新たにメンバーに加わり、身体の使い方について専門的な助言を得ることができた。児童の動きを参加者自身が身体で再現することで、どこに力が入っているか、どのような支援で力を抜かせることができるかを体験的に理解し直すことができた。
- ・継続的に同じ事例を検討することで、児童の成長を段階的に把握し、次の支援方針を具体的に検討できた。回を重ねるごとに教師に深い洞察力が高まり、「力が抜けているときに指導のチャンス」という共通の視点が共有された。
- ・「正しい姿勢づくりに向けた体操」を小学部2年生以上の朝運動（自立活動）に取り入れ、9月から毎日2分間継続した。一か月ほどで効果が表れ、知的障がいの中・軽度の児童では、あいさつ場面や教師の声掛けにより自身で姿勢を整えられる姿が見られるようになった。また、参加者以外の教員への理解や関心も広がった。
- ・座位保持クッションの製作では、型紙取りやクッションのエッジ・ブロックの位置の検討、座面の角度調整などを、自身の身体を使って確認しながら進めたことで、姿勢保持の基本や支援上の留意点を体験的に学び直すことができた。

## 今後の課題

事例検討会や座位保持クッションの製作で行ってきた実践的・体験的な学びは効果的である一方、応用行動分析や発達評価の読み取り、姿勢保持の理論など、支援の背景となる基本的な知識が十分でないことが分かった。今後も自主研修会の継続を計画しているため、これらの基礎的な内容を学ぶ機会を設け、理論を踏まえた視点を事例検討の場で活用していくことが必要である。

特別支援教育はチームティーチングが基本であるため、事例検討会で得た児童理解や指導方法を、学級・学年の他の教員と共有できることが望ましい。しかし、参加者以外の理解が難しい場合があった。自主研修会の目的は参加者自身の専門性向上にあることを前提としつつ、朝運動で行った「姿勢づくりの2分間体操」のような誰もが取り組みやすく効果を実感しやすい実践を通して、学校全体に広げていく工夫が求められる。